

ラリーサ S. バーレヴァ博士の略歴

現在 ロシア小児放射能防護センター長。

1964 年 モスクワ第2医科大学卒業、専門は小児科。モスクワ小児科・小児外科研究所の医師として勤務をはじめ現在に至る。

1990 年 小児放射能防護センター長に就任。

1997 年 教授となる。

1985－2001 年 ロシア連邦保健省小児科部局の長

2001－2005 年 ロシア連邦小児医療・社会検診主任専門医

2005－2008 年 ロシア連邦保健省 小児専門リハビリテーション主任専門医

長期にわたりロシア保健省医師・研究者会議小児科部門議長



国内で起こった緊急事態時には即時に小児科医として現地で指揮をした。特に、1986 年のチェルノブイリ原発事故の際は、汚染地域に出向き、電離放射線の作用による子どもたちの健康へのネガティブな影響を調査し、彼女の直接の参加や指導により、被曝した子どもたちを支援するシステムが創設された。後にそれは、大統領プログラム「ロシアの子どもたち」のサブプログラム「チェルノブイリの子どもたち」として機能した。

彼女の主たる臨床・研究上の成果は、発達する子どもの身体への放射能の影響、放射線誘因性疾患形成の病因メカニズムの究明、子どもの健康の偏向矯正、放射線の作用による影響の最小化を意図した診療、治療、リハビリテーション方策の作業、最新の技術を使用して小児人口の健康状態の改善や、予防医学的健康管理を行ってきたことなどである。

彼女の研究論文は 300 を超え、特に最近 5 年間で 55 のモノグラフや論文を発表している。ロシアの多くの専門部会のメンバーをつとめており、教育者としても数多くの研究者、医師を育て、高度な専門家として、組織者として、学者、医師として優れた業績を残している。ロシア功労医師の名誉称号や多くのメダルや称号、賞状が贈られている。

彼女はまた、常に教育者としても活躍し、医師や研究者たちに向けた講義やセミナーを行ってきた。ロシアの保健と社会発展省の法律、省令その他法制定のための資料準備にも参加している。雑誌『産科・小児科学ロシア報知』、『現代小児科学』、『臨床小児科学』の編集に参加し、「モスクワ小児科・小児外科研究所とロシア医療技術小児外科」学会員、論文審査評議員を務める。

現在、「ゼロ歳児に対する産婦人科的・医学的支援の効果的实施」に関するロシア保健省調整会議のメンバーで、放射線の影響と発病との因果関係証明に関する所轄官庁間会議のメンバーでもある。